

特定非営利活動法人
 **日本システム監査人協会報**

2010年12月発行
 No. **118**

No. 118 (2010年 12月 発行)

～システム監査を通じて、ITと経営の融合とビジネス課題の解決を支援する～
 日本システム監査人協会 メール通信 <http://www.skansanin.com/saaj/>

◇ ◆ HOT TOPICS ◇ ◆

【本号の掲載内容】

- ◇ めだか 監査人のコラム(投稿).....
- ◇ 全国のイベント・セミナー情報.....
- ◇ 会報編集部より、アンケート報告、電子版会報利用法.....
- ◇ 会員限定記事(紹介).....

◇◆ めだか ◆◇ 監査人のコラム(投稿)

【システム監査の原点を考えよう】

経済産業省(当時、通商産業省)のシステム監査基準が誕生して、早いもので20数年が経過しました。システム監査基準が制定される少し前、システム監査への関心が高まっていた当時のことを思い出しますと、当時はメインフレームが中心の情報システムでした。その後、パソコンの普及、分散処理、クライアントサーバシステム、インターネット、Webシステムというように情報通信技術が大きく進歩しました。

システム監査人として、こうした技術の変化をウォッチし、新しい情報通信技術に対してどのような監査を実施すればよいのか、・・・(“こもれび”の監査人)

【続きはこちらで読めます】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

【システム監査の専門家】

お読みになった方もおられると思われるが、「システム監査の専門家」ということについて、大変考えさせられる記事を発見した。それは、当方にとって、システム監査の大先輩にあたる方がお書きになられた「専門家の専門性放棄」というタイトルの意見である。お言葉によれば・・・(GAKU)

【続きはこちらで読めます】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

【「グーグル秘録 完全なる破壊」を読む】

大部の本であるが、数百人のインタビューによる軽妙な受け答えで構成されており、途中で放り出すことなく読み終えた。

グーグルの2人の若い創業者は、初め、なぜ活字本なのか、ネットに載せればいいではないか、活字本を作ることに協力するのは時間のむだだといって取材に応じなかった、という。

筆者の説得で創業者がインタビューに応じたあとは・・・(真却辺利)

【続きはこちらで読めます】 <http://www.skansanin.com/saaaj/>

コラムは、投稿者の個人的な意見表明であり、SAAJを代表する見解ではありません。

| ◇◆ 注目情報(12/1～12/31) ◆◇ |

◆ IPA 情報処理推進機構(2010/11/25)プレス発表

2010年12月16日(木)にIPAのクラウドセキュリティへの国際的な取組みを発表する「IPAクラウドセキュリティシンポジウム ～クラウドセキュリティ最前線～」を開催します。

【詳細はこちら】 <http://www.ipa.go.jp/about/press/20101126.html>

◆パブリックコメント:意見募集中

経済産業省では、「クラウドサービスの利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン(案)に対する意見募集」について、意見を募集しています。

期限:12月16日(木)

募集要項、ガイドライン案は、以下のURLをご参照ください。

【詳細はこちら】

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=595210034&Mode=0>

| ◇全国イベント・セミナー情報◇ |

■『SAAJメール通信 全国版』

システム監査に関連する最新情報を収集して、毎月発行しているメルマガです。

お申し込みは無料。職場の同僚の方には是非、ご紹介下さい。

(SAAJ会員は登録不要です。)

《登録はこちら⇒⇒ <http://www.skansanin.com/saaj/>》

■【東京・第17回システム監査実務セミナー】

日本システム監査人協会では、設立目的のひとつである「システム監査人の実務能力の維持・向上」のため、毎年数回、実践的なセミナーを開催しています。

今回のセミナーは、当協会が既に16回の開催実績を重ねる、「システム監査実務セミナー」(4日間コース 1泊2日×2回)です。このセミナーは、当協会の事例研究会で実施したシステム監査普及サービスの事例を教材として、実践で得たノウハウを皆様と共有することを目標にしています。

システム監査の実際を体験してみたい方やシステム監査技術者試験には合格したもののシステム監査参加機会のない方は、この機会を利用してシステム監査の実際を経験し、システム監査能力の向上を図りましょう。

開催日：平成23年1月29日(土)～30日(日)

平成23年2月12日(土)～13日(日) <1泊2日×2>

【詳細、申し込みはこちら】

<http://www.saa-j.or.jp/kenkyu/jitsumuseminar17.html>

■【近畿支部第123回定例研究会 (ISACA大阪支部との合同講演会)】

開催日：平成22年12月11日(土) 15時～

【詳細、申し込みはこちら】

<http://www.saa-j.or.jp/shibu/kinki/kenkyukai123.html>

■ 平成22年度 公認システム監査人およびシステム監査人補の更新手続きについて (平成16年度、平成19年度認定者)

【詳細はこちら】 <http://www.saa-j.or.jp/csa/csakoshin.html>

■ 平成23年度春期 公認システム監査人およびシステム監査人補の募集について

【詳細はこちら】 <http://www.saa-j.or.jp/csa/csaboshu.html>

■ 公認システム監査人特別認定講習の実施についてのご案内

【詳細はこちら】 <http://www.saa-j.or.jp/csa/tokuninannai.html>

◆◆ 会報編集部より、アンケート報告、電子版会報利用法 ◆◆

先月実施しましたアンケートの集計結果を報告します。
さらに、電子版会報の構成と利用方法についてお知らせします。
頂いたご意見や改善のアイデアにつきまして、分担して内容を検討し、採用可能なものから実施していきます。また、来年の活動計画等に反映させていただきます。
【詳細はこちら】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

◆◆ 会員限定記事(12/1~12/31) ◆◆

【本部・理事会議事録】(会員サイトから閲覧ください。パスワードが必要です)

- 1) 7月の理事会議事録
- 2) 9月の理事会議事録
- 3) 10月の理事会議事録
- 4) 11月の理事会議事録

発行: NPO法人 日本システム監査人協会 会報編集部
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-8-8共同ビル6F

ご質問は、下記のお問い合わせフォームよりお願いします。
【お問い合わせ】 <http://www.saa-j.or.jp/toiawase/>

送付停止は、お問い合わせフォームに申し込んでください。
【送付停止】 <http://www.saa-j.or.jp/toiawase/>

Copyright (C) 2010、NPO法人 日本システム監査人協会
掲載記事の転載は自由ですが、
内容は改変せず、出典を明記していただくようお願いします。

SAAJ会報担当
編集: 竹下和孝、仲 厚吉、安部晃生、成 楽秀、桜井由美子、山田 隆、片岡 学、
木村陽一、藤野明夫 投稿用アドレス: saa-j-kaihoh@yahoo.com

会報電子版の記事 目次

1. めだか (システム監査人のコラム)

【システム監査の原点を考えよう】

【システム監査の専門家】

【「グーグル秘録 完全なる破壊」を読む】

2. その他報告

会報電子化についてのアンケート報告(集計結果)

電子版会報の利用方法

【システム監査の原点を考えよう】

経済産業省(当時、通商産業省)のシステム監査基準が誕生して、早いもので20数年が経過しました。システム監査基準が制定される少し前、システム監査への関心が高まっていた当時のことを思い出しますと、当時はメインフレームが中心の情報システムでした。その後、パソコンの普及、分散処理、クライアントサーバシステム、インターネット、Webシステムというように情報通信技術が大きく進歩しました。システム監査人として、こうした技術の変化をウォッチし、新しい情報通信技術に対して、どのような監査を実施すればよいのか、苦労していたことを思い出します。

また、阪神淡路大震災によって多くの甚大な被害を受けましたが、これによってシステム監査基準が改訂され災害対策に関する監査項目が強化されました。また、個人情報保護法の制定、情報セキュリティ監査制度の創設、内部統制報告・監査制度のスタートというように社会の関心や制度が大きく変化し、それと相俟ってシステム監査の重要性が増大し、システム監査への期待も高まってきたと思います。

筆者がシステム監査の勉強を始めたころは、セキュリティとは何か、なぜセキュリティが必要なのかを経営者や監査対象部門に説明するところから始めなければなりません。また、個人情報保護の必要性についても、個人情報保護の基本から説明しなければならないような状況でした。つまり、システム監査を行う前の活動に多くの時間を取られていたと思います。

最近では、経営者や監査対象部門などにシステム監査の必要性やセキュリティ、個人情報保護の重要性について説明しなくても済むようになったので、システム監査人にとって、監査をやりやすくなったと感じています。その反面、システム監査とは何か、システム監査の役割はそもそも何かとうことを考えずに、システム管理基準や自社の監査手続書に基づいて監査をしているシステム監査人も増えているような気がします。

システム監査は、もともと内部監査を中心には発展してきたものです。内部監査の役割は、経営改善や業務改善のための指摘や提言を行うことです。システム監査は、情報通信技術を企業等の目標達成に貢献させるための仕組みやプロセスがあるかどうかを点検・評価する役割を担っています。この原点を忘れてしまうと、付加価値のあるシステム監査を実施することができないのではないのでしょうか。

情報セキュリティ監査制度は、外部監査を前提に考えられたものです。自組織の情報セキュリティ管理が適切に行われていることを第三者にチェックしてもらう制度なので、どうしても情報セキュリティ管理基準をベースにした準拠性の監査になってしまいます。システム監査として実施する情報セキュリティ監査では、情報通信技術を経営目標の達成に貢献するように活用する上で必要な情報セキュリティが確保されているかどうか、という視点で監査します。ですから、オーバーコントロールがあれば、それを改善するような改善提言も行うわけです。

内部統制報告・監査制度におけるIT統制の評価では、財務報告の信頼性確保に係る部分の有効性だけしか評価あるいは監査しません。企業にとって最も重要である、経営目標(利益目標・販売目標など)を達成するためのIT統制が有効かどうかについては、評価・監査を行いません。経営者や監査対象部門が喜ぶような改善提言、つまり、内部統制報告・監査制度は、営業支援システムが顧客獲得に役立っているか、顧客サービスの向上につながっているか、というような視点での改善提言は行わない制度になっています。今後のシステム監査の発展を考えると、一度、原点に立ち返ってシステム監査を考えることが必要なのではないのでしょうか。

(“こもれび”の監査人)

(このコラム文書は、投稿者の個人的な意見表明であり、SAAJの見解ではありません。)

【システム監査の専門家】

お読みになった方もおられると思われるが、「システム監査の専門家」ということについて、大変考えさせられる記事を発見した。それは、当方にとって、システム監査の大先輩にあたる方がお書きになられた「専門家の専門性放棄」というタイトルの意見である。お言葉によれば、およそ次の通りである。

日本の社会で大変心配なことが起こっている。それは専門家の専門性放棄である。たとえば、裁判員制度を導入した司法の世界、内部統制の評価を極力企業の自主判断、自己対応そして自己申告の報告に任せようとしている会計監査の世界、更にはスポーツ選手や芸能人を引っ張り出した政治の世界などなど、それぞれ専門性が求められる分野で、専門性の放棄が起きている。そして、情報セキュリティについても、「(担当者が)企業においてセキュリティを推進したいと思っても、トップが考え方を変えない限り何時まで経ってもセキュリティは改善されない」との話があるが、組織の中で、必要なセキュリティレベルを提案し実現するのは、専門家である担当者の責務であり、トップの所為にして専門家としての能力を発揮できていない。経営者を説得できないのは、担当者の専門性の不足または熱意不足ではないか。専門家は専門性を発揮してこそ、専門家なのである・・・。

担当者の一人である当方にとっては、少し辛口の大先輩のコメントであったが、十分に同意できるものであり、またシステム監査の世界は、はたしてどうなのだろうと考えさせられるものとなった。

システム監査基準が制定されてから、早20数年たった現在。そして、いまや経営者自身も、パソコンを操作し、またIT分野の経験があるひともいるという環境にある。しかし、企業の中であって、もし仮にシステム監査の重要性を説明しシステム監査の普及(もう、「普及」という時代を過ぎているのではないか、そして過ぎてほしいが)及び充実を果たせていないとすれば、それは、システム監査の専門家としての役割を果たしていないか、もしくは専門性を持っていないかのどちらかということになる。

日本情報処理開発協会が、隔年で「システム監査普及状況調査」を実施している。平成18年の調査結果によれば、システム監査の実施において、最も問題だと思われるのは、「システム監査人が不足している」の回答が最も多く、「トップマネジメントのサポートが得られない」は僅かの回答であった。この調査結果だけで、システム監査の専門家がしっかりと経営者のその重要性を認識させているとはいえないが、少なくとも調査開始(確か平成2年頃)当初よりは、システム監査人等は、経営者のITリスクやコントロールに対する理解や啓発を促す役割を、専門家として担ってきていると考えたい。

冒頭の記事を読んでいて、また、あることを思い出した。当方が、かつて内部監査の世界に初めて足を踏み入れた頃、ある先輩内部監査人に、心構えとして、「マージャンのサンシキ」ならぬ「監査人のサンシキ(=三識)」を教わった。それは、「知識」「常識」「見識」である。先輩は、これに「胆識」(腹の据わった考えであるという)を加え、「ヨンシキ」だと教えてくれた。システム監査の専門性の発揮も、実はこれに通じるところが多く、とりわけ、トップマネジメントへのアピールする場面についても、ITの技術的領域及びシステム監査技術領域の専門性の発揮のみならず、この「ヨンシキ」を専門家として十分発揮することが重要ではないかと考えるがどうであろうか。

そして、あらためて、日本システム監査人協会の「システム監査人倫理規定」を読み返してみた。そこには、「ヨンシキ」の精神が十分に反映されていると感じた。

以上

(GAKU)

【「グーグル秘録 完全なる破壊」を読む】

大部の本であるが、数百人のインタビューによる軽妙な受け答えで構成されており、途中で放り出すことなく読み終えた。

グーグルの2人の若い創業者は、初め、なぜ活字本なのか、ネットに載せればいいではないか、活字本を作ることに協力するのは時間のむだだといって取材に応じなかった、という。

筆者の説得で創業者がインタビューに応じたあとは、同社員100人以上がインタビューに応じているが、1人の副社長だけは最後まで拒否したそうである。拒否の理由は明らかではないが、拒否した人がいるのが面白い。

グーグルの創業者は「学生」と呼ばれたりしているが、正確には「コンピュータ科学のエンジニア」であり、「エンジニア」が作り、大きくした組織がグーグルである。

ある程度社員数が多くなったとき、社内のミーティングで、「自分たちはどうなりたいか」を議論した、とある。

とにかく検索ユーザの利便のために奉仕するという考え方でやってきても、ある程度大きくなって社会的に影響力が始め、衝突も出てくれば、社員全員が立ち止まり、目指す方向を意思統一する必要が出てきたのであろう。

まとまった結果が「われわれは邪悪にならない」である。

「ユーザ本意をさらに徹底する」など、凡庸ないい方ではなく、「邪悪にならない」という表現は、評者にいわせれば、エンジニアらしい生真面目さにあふれている。

あるいは、IT業界では、大きくなり過ぎて「邪悪になった」ところがあるのかもしれない、「おれたちは、そうはならない」という決意表明が新鮮にひびくのであろうか。

社員食堂を始めたきっかけは、メンバーが食事に出て、並んだりする時間がもったいないからである、という。経費はすべて会社持ちで、利用者は無料である。一時は100種類のメニューがあったが、経費見直しで50種類になった、著者は「それでも他社より50種類多い」といっている。つまり、他では、まねできないのである。

もちろん大きな主題は、グーグルによって、既存のメディア、というよりそれまでの世の中の多くの部分が変わられたか、にある。

翻訳本の題名は「秘録」とやや古めかしいが、原著の題名は「Googled」である。

少しネットなれした人は、「グーグルで検索する」を、短く「ググる」という。

世の中がどれだけググられたか、どれだけググられていくのか、また、グーグルそのものがどこまで変貌していくのか、だれも簡単に解を提出できない。

多くの本は読み終わった場合、一種のカタルシスがあるが、本書の場合は、上の問いがのしかかってきて、衝撃が残ったままなのである。

(真却辺利)

編集部よりお知らせ 会報電子化についてのアンケート報告(集計結果)

自由記述の項目では、たくさんのコメントを記入いただき、ありがとうございました。
以下の記述は、「なし」と記入された回答を除く、生の投稿内容そのものです。
2010. 11. 30現在の回答数 合計64 (いったん締め切りました)

問1 あなたの会員種別は？※必須

- ・SAAJ会員で、かつCSA/ASA 34票
- ・SAAJ会員であるが、CSA/ASAではない 28票
- ・SAAJ会員ではないが、CSA/ASA 0票
- ・一般(SAAJ会員でも、CSA/ASAでもない) 0票

問2 あなたがお住いの都道府県は？

- ・東京 14票 22.6%
- ・神奈川 8票 12.9%
- ・埼玉 8票 12.9%
- ・千葉 6票 9.7%
- ・大阪 5票 8.1%
- ・愛知 3票 4.8%
- ・広島 3票 4.8%
- ・福岡 3票 4.8%

(以下、1人の投稿がある県は省略)

問3 最近発行、送付した次のSAAJ会報は、読んでいただけましたか。(複数回答可)

※必須

- ・会報2010年10月号(No. 116)メール+電子版 50票 80.6%
- ・会報2010年9月号(No. 115)メール+電子版 40票 64.5%
- ・会報2010年8月号(No. 114)メール+電子版 37票 59.7%
- ・会報2010年7月号(No. 113)メール 36票 58.1%
- ・会報2010年4月号(No. 112)総会特集冊子版 30票 48.4%
- ・会報2009年12月号(No. 111)電子版試行 29票 46.8%

問4 SAAJの公式サイト(<http://www.saa-j.or.jp/>) では、会報コーナーを設けて、会報の電子版(全体ページ)をPDF形式で閲覧、またはダウンロード頂けます。利用いただきましたか。(複数回答可)※必須

- ・閲覧したことがある(画面でビューア機能で見る) 38票 61.3%
- ・見ていない 17票 27.4%
- ・ダウンロードしたことがある 15票 24.2%
- ・ダウンロードして印刷したことがある 3票 4.8%

問5 SAAJの情報発信サイト(<http://skansanin.com/saa-j/>) では、会報の記事を、めだか、月例会報告、支部報告など、個別に閲覧、およびダウンロード頂けます。利用いただきましたか。(複数回答可)※必須

- ・閲覧(ビューア)機能を利用したことがある 29票 46.8%
- ・利用していない 26票 41.9%
- ・PDFファイルをダウンロードしたことがある 13票 21.0%

問6 印象に残った記事があれば、タイトルを教えてください。
(出来れば号数、記事がわかりキーワードを記入願います)
印象に残る記事がなければ、なし、と記入ください。(400字以内)※必須

めだか・・・は、毎号楽しみです。

めだか ◆◇ 監査人のコラム(投稿)

日付改竄、システムリスクについては、SAAJとしても見解を示したほうがよいと思います。投稿の後に、「SAAJとしての見解ではない」と書かれているのは、内容が内容だけに、少々違和感があります。

研修等の案内

システム監査法制化か自己規律か

クラウド

めだかの記事が面白いと感じました。

印象に残ったというわけではないが、◇ もうすぐ開催のイベント・セミナー情報 ◇は、大変助かり、有用な情報です

「失敗を通して学んだシステム監査の勘所」

いずれの記事も興味深く見えています。

特に、めだかはその時々話題がシステム監査人の立場を中心に捉えられているので、いいコーナーです。

記事一覧がリストされているので時々読み直すにも便利で重宝していますので今後も継続して掲載してください。

めだか(毎号)

no114 15万台Windows2000サーバの行く末

会報116号◇◆めだか◆◇監査人のコラム(投稿)

システムリスクへのアンビバレンスな思い

申し訳ありません。閲覧に行くという作業ができておりません。業務優先であること、所属組織が多いことから、なかなか所属組織サイトを定期的には閲覧することはできない状況です。

①めだか(監査人のコラム)

他のシステム監査人の方々が、どのような事件・事故等に関心があり、どのような考えをしているかが伺えて、とても興味深く拝読しています。

②SAAJ月例研究会報告

興味のあるSAAJ月例研究会は出来るだけ聴講するようにしていますが、聴講できない研究会について内容を知ることが出来るので、大変有り難く思っています。

システム監査の勘所

システムリスクへのアンビバレンスな思い

めだか(監査人のコラム)が面白いと思います。

2010.09 SAAJ会報 失敗を通して学んだシステム監査の勘所

2010年5月11日(火) 第154回月例研究会 ソフトウェア資産管理(SAM)の基礎知識(構築のポイントと求められる管理状態)

2009年11月9日 第150回月例研究会 情報サービス産業の現状と課題

”めだか”は興味深く読ませていただいています。

読んでいないので無し

システム監査に対するISO化の取組み。

システム監査と情報セキュリティ監査の違いと関連 10のQ&A

クラウドサービスの選定ガイドライン

自分が講師となったシステム監査普及セミナー(近畿支部主催)が掲載された記事

めだかの記事。監査人の視点があって興味深い

問7 会報記事の編集内容について、もっと利用価値を高めるにはどうすればいいとお考えですか。(自由記述)※必須

月例研究会のプレゼン資料を付録に付けてはいかがでしょうか?

タイムリーな情報が編集されていれば利用価値が上がると思います。

監査事例(内容は難しいと思うが、監査対象程度でもよいが)の紹介

利用価値を高めるためには、引用されやすい内容だということが必要だと思います。

たとえば、システムリスクについて検索エンジンで引っ掛かるようなキーワードがあれば、引用されやすくなります。そこに、SAAJとしての見解があれば、「SAAJでこのように言っている」と使ってもらえるのではないのでしょうか。ご検討ください。

もう少し、見やすくして下さい。

1)もう少し突っ込んだ検討結果を載せてもらいたい。

2)過去に検討した事項については、過去の記事を載せた会報(バックナンバー)を参照するような構成にするとよいのではないかと思います。

ISO化とかの最新の情報が欲しい

同一の業界単位での意見交換の場を設ける

当面は現状で十分だと思う。編集する方々もご苦勞されていると思うので、現状で普及するために時間をかける方がよい。

会報の時間的統一感がなくなってしまったように感じます。(これは何号の記事なのかなど)またリンクが多く感じるので会報を全部読み終わったのかどうかなんかぴんときません。ダウンロードしても自分で印刷するのは手が掛かります。

今までどおりの会報のスタイルで単純にPDF化してある形だけで十分かなとも思えます。

月例講演会の資料を添付されれば、遠方の方も嬉しいと思います。

システム監査の事例を多く紹介して欲しい。

特に、業種別、企業規模別にシステム監査の事例が整理できると非常に参考になると思います。

システム監査物語みたいなドラマ仕立てで、トレンドやありがちな問題・課題・妨害にどう立ち向かうかを分かりやすく紹介してくれる連載記事を入れてください

会報記事に署名投稿を認めるなどして、監査経験・ITの経験等を掲載して投稿の量を増加させる。その際には、投稿日付・一定のカテゴリーを登録して貰うなどしてインデックスを付し、容易に検索できると共有化が一層容易かと思えます。

アイデアを思い浮かべられません。すみません。

一般会員からの投稿記事を増やす

ニュース的な要素が多くなったと思います。

もっとシステム監査の実施例やSAAJの考え方を掲載してほしい。

特集記事を印刷物で会員に年2回くらい送付(正月、お盆時期)

経営に関するものなのか、社会基盤のシステムに関するものとかいう風に、世の中のどの領域についていっているのかが明らかなほうが良い。

とくに今のままでよいと思います。あまり長いと読まなくなるといいますので、今くらいがちょうどよいと思います

システム監査に関する様々な意見や要望、事例等について中央官庁や地方自治体、民間企業からの記事投稿を希望します。

情報システムの管理者や経営者は自社システムの強み弱みを知りたい志向があると思います。

「うちのシステムはどうなんだ」と思っても他社との比較材料はなくコンサルや監査にも金がかかるので自信のない状態が続いていると。

会報の記事がそのような欲求に役立ち、協会の知名度アップなどになれば素晴らしい。

たとえば、情報システムに関する出来事や動向・環境変化について、システム監査人協会としてのコメントが出せれば、企業等にとってベンチマークになったり判断材料になるのではないのでしょうか。

システム監査の観点からシステムが具備すべき・達成すべき状態の指針になるようなものをイメージしています。

協会の見解としての発表が難しいのなら、編集後記とかシステム監査人見解とか。

めだかはそれに近いが「具備すべき・達成すべき状態の指針」ではないと思います。

寄稿者確保や継続性など課題はありますがご検討下さい。

読者である専門家にとって必要な情報を増やしてください。

例) ・ISOの専門委員会や作業部会の作業進捗

- ・セキュリティ監査基準の見直し動向
- ・システム管理基準のISO化の進捗

思いつきません。

システム監査に関する実績、事例などに関して、内容は公開できないことが多いと思いますが、どのような組織で何件くらいのシステム監査が実施されているのか知ることができれば今後の動向として参考になります。このような情報はなかなか入手できないかとは思いますが。

特に思いつきません。

現状のままで十分利用価値があると思います。

メール上で、トピック記事の案内や、ダウンロード保存で役立つ情報など、中身のわかるご案内があれば、と思います。

このままでよいと思います

全文をPDFにて閲覧・ダウンロードが出来る内容が多いのですが、会社のPCから閲覧する場合、弊社では仕掛け上、非常に時間が掛かる(1件、約1分)ので、もっとスピーディに閲覧できればいいと思っています。

すぐには思いつきません。

ITと経営の融合やビジネス課題の解決支援につながる、システム監査をめぐる旬な話題を多く取り上げ、わかりやすく提供する

監査内容の分類を表示していただくと助かります。

例えば、会計監査だとか、業務監査だとか、システム開発の監査なのかとか。

いつも興味深く拝見しております。

企業に所属して活動を進めている事から、全体動向の把握が難しいと感じております。このため、以下の内容を中心に、考えるきっかけとしてホットな話題提供を希望します。

1. ユーザー企業から見た情報システムへの期待や利活用事例
2. システム監査の個別目標から見た、成功ポイント、失敗ポイント
3. IFRSへの情報システム対応とシステム監査上の留意点

ビジネスに役立つ資料の公開

記事に対する意見投稿ができるとうれしいと思います。意見投稿となると、投稿された意見に対するフィードバックも必要になりますが。

郵送が好ましい

情報の羅列になっている気がします。重要度に応じたレイアウトにいただければ。

今のものでも受け止める人によっては利用価値は十分あると思います。強いて言えば双方向性の付加でしょうか？

・会員は何かを求めて会員になったはずなので、それをくみ上げ実行していくことへの支援、活動意欲の喚起。

・システム監査の定義を会員で作り上げ、公表するなどの議論の場として活用。

メーリング・リストを近畿支部のように、発信も出来るようにするべきである。また、BBSの設置が必要である。この点がISACAに比べて大幅に遅れている。

わからない

システム監査の有効性のアピール。システム監査の導入の於ける成功事例の紹介。

SAAJのホームページから会報のページへ行くことができなかった。もっと行き方をわかりやすくしてほしい

SAAJが主催したセミナー等の概要を読みやすいレイアウトで掲載する。

特集記事にして、パワーポイントで活用できれば良い

テーマを決めて連載記事を書くのは一案かもしれません。

企業内監査人の能力向上に寄与するコンテンツ、及び、監査サービス活動などシステム監査の普及活動の水平展開

各社のシステム監査の事例をもっと紹介してほしい

過去の会報の電子版アーカイブが欲しい。(紙媒体を処分できるので)

より多くのコンテンツが欲しい

問8 最近、入会された方に伺います。

「新入会員のエッセイ(仮称)」という投稿コーナーを再開します。記事の投稿に、ご協力いただけませんか。ご協力いただける場合には、一言、コメントをお願いします。または後日、投稿頂ける方は、メールアドレスをお知らせください。編集担当から個別に案内させていただきます。

・新入会員以外のエッセイも、投稿できるようにするべき

問9 最近、情報処理技術者試験を受験され、入会された方に伺います。

「情報処理技術者試験」の会場で、システム監査人協会の活動を紹介するチラシを配布しました。お気づきになりましたか。お気づきの場合には、簡単な印象をお知らせください。

- ・通常, そういうものを配っているのは予備校なので, 驚きました。
- ・もっと他にやるべきことがあるのでは。
- ・気づきませんでした。
- ・特に気がつきませんでした。
- ・ちらし配布はあまり効果はないと思われる。結構捨てられていた。
- ・気がつかなかった

問10 ご協力、ありがとうございました。

このようなアンケートについて、紙面の質を向上させるために、不定期ですが、今後もお願いしてもよろしいでしょうか。ご意見があれば、コメントをお願いします。(400字以内)

はい、結構です。

良いと思います。

会報を通じて双方向になるといいですね。

監査人コラムはブログ形式でコメント可にするというのも一つのアイデアだと思いますが、いかがでしょうか。

協力させていただきます。

紙面はどうでもよいと思います。

重要なのは経営者のニーズに回答できるかということで、もし出来ているなら社員を募集して事業を拡大していると思います。

今の紙面は実力がないことがはっきりと出てしまっており、経営者が発注したくなるような紙面ではありません。

OK

いろいろとご事情がおありでしょうが、私は紙で印刷された会報が手元に届き、すべてとはいえないまでも目を通して保存しておき、いつでも読める旧来の方式に賛同いたします。

最後に会報編集作業、毎回お疲れ様です。

いろいろな分科会の活動内容を紹介し、参加者を募り、更なる活動に繋げればよいのではないかと思います。

アンケートの件は、了解。他に、電子化された後の会報がPDFでも良いので参照できるようにしてほしい(直近の会報は参照できます)。

良いと思います。

アンケートにはできる限り協力したいと思います。

システム監査は、もともと情報システムの信頼性、安全性、効率性を高めるためのものでした。

今日、ITシステムは経営のインフラとして、あるいは競争優位的手段として、さらにはITの利用が内部統制の構成要素としてあげられている為、システム監査は経営の一部のような印象を受けますが、本来はシステム全般を対象にしていると考えます。

つまり、システム監査は経営だけでなく、行政や社会インフラに関するシステムにも深くかかわっていくべきだと思います。

あまり頻度が高いとやらされ感が募るので、年に1回程度であれば良いのではないのでしょうか。

読者からのフィードバックに有益なものがあったら会報に活かしてほしい。

結構です。

このようなアンケートを実施し会員の意見を求めるのは紙面の質を向上させるうえで大切なことだと思います。今後も協力させていただきます。

アンケートにつきましては、今後も定期的にも実施し、その意見等を反映して、より良い会報にして頂ければと思います。

今回のアンケートとは関係ない話ですが、個人的にブログを開設しており、その場で研究会の案内や参加レポートなどを記事として載せようと考えております。こちら→

<http://ameblo.jp/koten-system/> 問題などはありませんでしょうか。

時間が許す限り、協力出来たらいたします。

情報システムを取り巻く動向は、常に変遷します。

また、企業内から見ても情報システムへの期待は常に変化しています。

このため、システム監査への期待内容や成功/失敗のポイントも、本質的な不変部分と期待に沿った変化部分があると感じております。

その対象の理解を深める上でも、アンケートを継続する必要があると考えております。

会報コーナー、SAAJの情報発進サイト等、閲覧方法が分かりません。

(会員コーナーは、登録情報の変更等だけでしょうか?)

Webでの定期的なアンケートは良いと思います。

こういう地道な働きかけは必要だと思います。

これは協力します。

会報をインターネットで見るようになったことは、情報システムを有効に活用すべきこの協会ならではの取組みと評価しております。

会報の照会可能期限を決めて掲示されることを希望致します。

会報の第1号からを収集している一会員として、いつまで会報をHPで検索できるようになるでしょうか?

今回のHP化は良かったと思います。

会報は冊子版でも頂けるとありがたいです

アンケートには喜んでいつでも回答します。

アンケートを、定期的におこなって会員の声を反映してほしい。

以上 アンケート回答より
SAAJ会報編集部

電子版会報について、もっと活用いただけるよう、全体の構成、利用方法などお知らせします。

■ 電子版会報の構成

電子版会報は、次の3つの種類でご覧いただけます。

- 1) 電子メール (メール会報。毎月または臨時で配信します)
- 2) 電子版会報 (個別記事。最新記事、過去の記事を閲覧できます)
- 3) 電子版会報 (全体記事。国立国会図書館に保管されています)

■ 電子版会報の閲覧方法

電子版会報は、次のような記事構成をとっています。個別の記事は、リンクしていますので、後日探すときに便利です。

1) 電子メール
(メール会報)

2) 電子版会報
(個別記事)

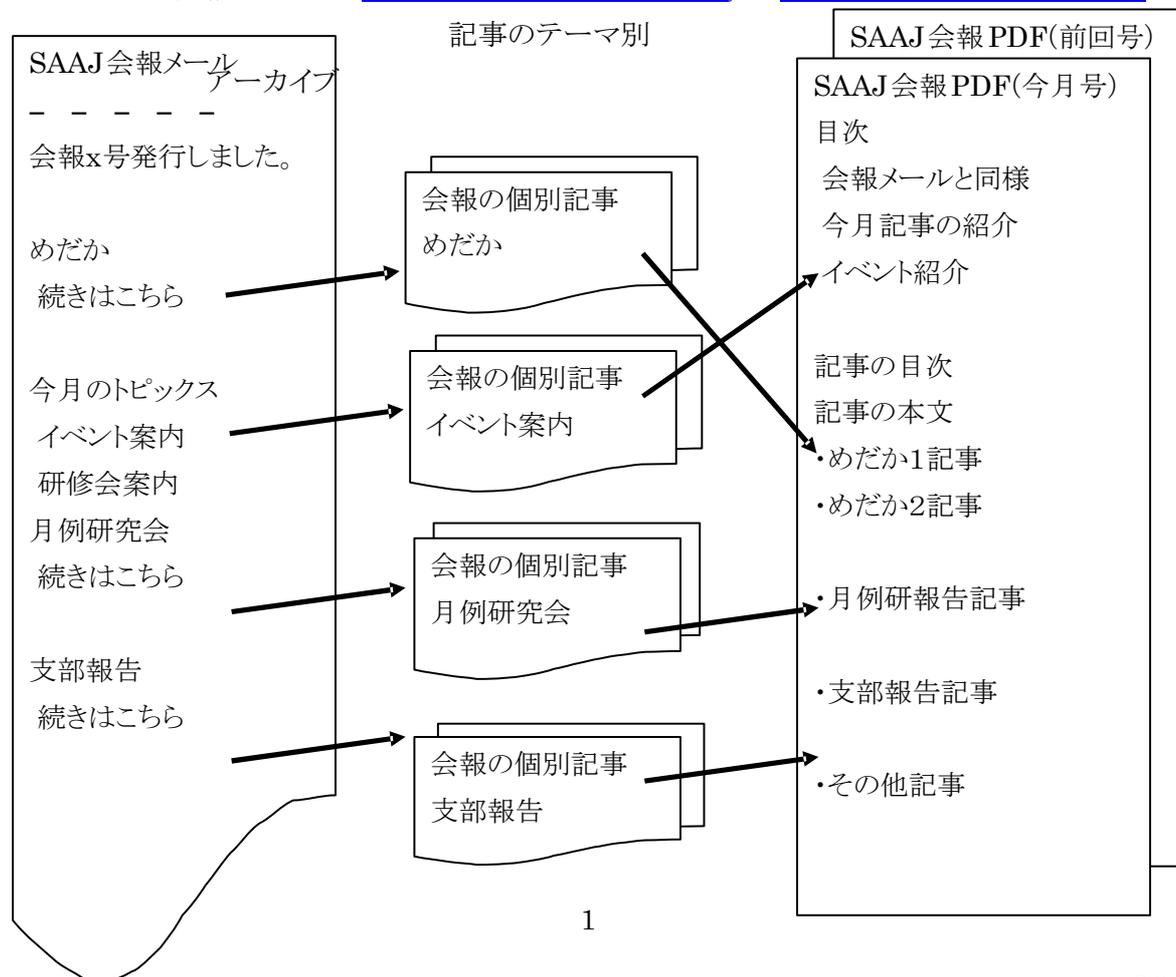
3) 電子版会報
(当月の全体記事)

<http://www.saa.or.jp/>

電子メールで配信

<http://www.skansanin.com/saa/>

<http://www.skansanin.com/saa/>



■ 電子版会報の利用方法について

電子版会報は、印刷コスト、配送コストの削減を目標に準備し、運用しています。
電子化することで、情報提供の時間短縮、コストの削減を実現しました。

さらに、多様なアクセス方法を提供し、保管の利便性の向上を図り、また会員以外の方へ、システム監査に関する情報サービスの提供を可能にしています。

■ 電子版会報の利用方法について

電子版の特徴として、記事の中でURLを示してある個所は、直接リンクできるように設定しています。
つまり、http:// で始まるURLにマウスのカーソルを合わせることで、ダブルクリックすると、直接記事の内容を閲覧できるようにセットしております。

会報記事の発信は、SAAJ公式ページと会報の情報発信ページの2か所に掲載しています。

1) SAAJ公式ページ

<http://www.saa.or.jp/> のサイドメニューの「公開会報」(画像1、2)

- ①メールで配信する会報の案内
- ②公開する会報の電子版(①の内容を含みます)
- ③会員限定記事(①②の目次で、会員限定と表示した記事。例えば、理事会議事録)

(画像1)

SAAJ サイトのトップページの左側に、「お知らせ」で始まるサイドメニューが表示されています。この下の方に「公開会報」というメニューがありますので、クリックして詳細を見てください。



「公開会報」の内容として、現在は

- ・2010年7月会報
- ・・・(略)
- ・2010年11月会報

と表示されますので、該当する会報の号数をクリックして閲覧できます。また右クリックすると、ダウンロードも可能です。

(画像2)



2) 会報の情報発信ページ <http://www.skansanin.com/saaj/> (画像3)

掲載している記事の内容は、

② 公開する会報の電子版 (公式サイト、およびメールで配信する①の内容を含みます)

④ 公開する個別記事を投稿エッセイ(めだか)、研究会、支部などに分類したもの
また、会員でない方も、無料購読の申し込み・解除ができます。

(画像3)



■ 会報への投稿は、いつでも受け付けております。投稿方法を改善予定です。

■ 電子版会報の質問、意見は、今後もお願いしていきます。

電子版会報のアンケート項目への個別の提案やご意見につきましては、次回、概要を報告し、また改善に役立つよう採用させていただきます。

なお、記入いただいたアンケート内容やご意見は、苦言も含めて、会報紙面で公開させていただくことがあります。あらかじめご了承くださいませよう、お願いいたします。

以上 SAAJ会報編集部